

インバウンド観光による地方創生の可能性

——栃木県栃木市を事例に——

本研究は、インバウンド観光による地方創生の可能性について、栃木県栃木市を事例に検討することを目的とした。近年、日本では訪日外国人観光客数が増加し、観光は地方経済を支える重要な要素となっている。一方、地方都市の中には、豊富な観光資源を有しながらも、インバウンドの恩恵を十分に受けられていない地域が存在する。栃木市は、蔵造りの街並みや巴波川といった歴史・文化資源を有し、首都圏からのアクセスにも恵まれているにもかかわらず、外国人宿泊者数が極めて少ないという課題を抱えている点に問題意識を持った。

本研究では、まずインバウンド観光の全国的動向と地方にもたらす効果を整理し、次に栃木市の観光資源、人口動態、観光客数の現状分析を行った。その上で、高山市、川越市、金沢市、別府市といったインバウンド観光に成功した地域の事例を比較分析し、成功要因を抽出した。

分析の結果、成功地域に共通する要素として、1) 地域文化を生かした体験型観光の充実、2) 明確なターゲット設定と戦略的プロモーション、3) 多言語対応や交通整備など受け入れ環境の整備、4) 地域住民・行政・事業者の協働体制、5) 広域連携と持続可能性への配慮が挙げられた。これらを踏まえ、栃木市においても滞在型観光への転換と地域主体の観光まちづくりを進めることで、インバウンド観光を通じた地方創生は十分に実現可能であると結論づけた。